

日本語と韓国語の受身文の実証的対照研究 ——両国のテレビドラマと新聞コラムにおける 受身文の使用率の分析を通して——

許 明 子*

キーワード： 受身文の使用率、話しことば、書きことば

要 旨

本稿では日本語と韓国語の受身文について、話しことばのデータとして両国で放送されたテレビドラマを、書きことばのデータとして新聞コラムを用いて、その中で受身文がどのように使われているかを、受身文の使用率を中心にして調査分析を行った。分析の結果、両言語の受身文の使用には次のような特徴のあることが分かった。

第一、日本語と韓国語の受身文は、実際の言語生活場面においては使用率が低く、両言語のテレビドラマにおける受身文の使用率は、日本語が全体会話文の約6.6%、韓国語が約2%に過ぎなかった。

第二、日本語と韓国語の受身文は話しことばよりも書きことばにおいて、より頻繁に使われていることが分かった。新聞コラムの中での受身文の使用率は、日本語が12.4%、韓国語が20%であった。話しことばの中では有情物が主語になる有情物受身文の使用率が高く、書きことばにおいては非情物が主語になる非情物受身文の使用率が高かった。

第三、直接受身文と間接受身文とでは、両言語ともに直接受身文の使用率が圧倒的に高かった。特に、新聞コラムで直接受身文が占める割合は、日本語が97.2%、韓国語が99%にも上り、非常に高い使用率を示した。

第四、日本語の受身文の使用の特徴は、テレビドラマでは有情物受身文が70.7%にも上り、非情物受身文が16.4%であったのに対して、新聞コラムでは有情物受身文の使用率が31.2%に止まり、非情物受身文の使用が66%を示した。

1. はじめに

日本語と韓国語は、文の構造上酷似している、ということは、今までの両言語の対照研究において繰り返し指摘されてきたことであるが、それは受身文の構造についても同様なことが言える。そのようなことから、日本語の受身文と韓国語の被動文¹に関する従来の対照研究は、両言語の受身

* HEO Myeongja: 志學館大学法学部専任講師。

¹ 本稿で用いる「被動文」という用語は、韓国語における受身文を指すものであり、日本語の受身文と区別して韓国語の受身文のみを指す時に使うことにする。また、日本語と韓国語の受身文をともに指す場合は「両言語の受身文」と呼ぶことにする。

文の構文的な特徴を中心に、対応関係を明らかにすることを目的とした研究が多かった(柴 1986; 李吉遠 1991; 生越 1982, 1991; 塚本・鄭 1993, 1994, 等)。

しかし、両言語の受身文の形態的な特徴を見ると、日本語の受身に比べて韓国語の被動は形態が多様で複雑である。また、両言語の表現の特徴を見ると、日本語は受身的な表現が好まれ、日常生活において頻繁に使われていると言われているのに対して、韓国語は能動的な表現が好まれ、日常生活において被動文はあまり使われないと言われている。

両言語の受身の意味や構文的特徴は類似しているが、形態的な特徴や語用論的な特徴においては異なっていると思われる。しかし、両言語の受身文の使用に関する研究や日常生活における使い方に関する実証的な対照研究はほとんど行われてこなかったようである。

従って本稿では、両言語の受身文の実証的な対照研究の試みとして、話しことばと書きことばにおいて、両言語の受身文がどのように使われているかに関する調査分析を行った。話しことばに関する調査としては両国で放送されたテレビドラマをデータとし、書きことばに関する調査としては、両国の新聞コラムをデータとして、その中に見られる受身文の使用について比較対照分析を行った。

分析の結果によって、両言語の受身文の使用率、さらには両言語の話しことばと書きことばにおける受身文の使用に関する特徴が明らかにされられると思われる。

2. 両言語の受身文に関する概観

2-1. 日本語の受身文の分類

日本語の受身文は統語的な特徴によって大きく「直接受身」と「間接受身」に分けることができる(寺村 1982)。直接受身は能動文と対応しており、能動文の変換によって作られ、その意味は、受身文の主語に立つ主体が、述語動詞が表す動作の影響を直接的に受けることを表す。一方、間接受身は対応する能動文を持たず、基本文からの派生によって作られる。間接受身文の意味は、述語動詞の表す動作の影響を直接的に受けるのは第三者であり、受身文の主語は間接的に動作の影響を受けることを表す。次の例文(1)(2)は直接受身文、(3)(4)は間接受身文の例である。

- (1) 花子は太郎に叩かれた。
- (2) 『源氏物語』は紫式部によって書かれた。
- (3) 花子は太郎に日記を読まれた。
- (4) タベ赤ん坊に泣かれて眠れなかった。

本稿では受身を直接受身と間接受身に分類したが、さらに、直接受身と間接受身を構文上の特徴によって下位分類をすることができる。直接受身は主語に立つ主体が感情を持った有生物であるか無生物であるかによって、前者を「有情物直接受身」(以下、「有情物受身」と呼ぶ)、後者を「非

情物直接受身」² (以下、「非情物受身」と呼ぶ)に分けることができる。上にあげた例文(1)は有情物受身文、(2)は非情物受身文である。

間接受身文の主語は基本的に有情物であるため、述語動詞が表す動作との関係によって下位分類を行う。即ち、受身文の述語動詞が表す動作の影響を受けるものが主語の所有物である受身を「所有物間接受身」³ (以下、「所有物受身」と呼ぶ)、そして主語とは無関係の第三者である場合は「非所有物間接受身」(以下、「非所有物受身」と呼ぶ)と分類することができる。上にあげた例文(3)は所有物受身文、(4)は非所有物受身文である。非所有物受身の中には、(4)のように、日本語特有の表現とされる自動詞による受身文が含まれる。

以上、本稿では日本語の受身文を大きく直接受身と間接受身に分けて、それぞれの下位分類として有情物受身と非情物受身、所有物受身と非所有物受身に分けることにする。

2-2. 韓国語の被動文の分類

韓国語の被動文は日本語の受身文に比べて多様な形態で表されるのが大きな特徴であると言える。従って、韓国語の被動文を分類する場合、一般的に形態的な特徴が基準になることが多いが、本稿では、韓国語の被動文を日本語の受身文の分類と同様、統語的な特徴によって分類を行うことにする。

まず、本稿において韓国語の被動文として認められる形態は大きく次の三つである。

- ① 被動の意味を表す接辞 *ㅁ/hi/*・*히/hi/*・*리/ri/*・*기/ki/* の接続による被動文
- ② 被動の意味を表す補助動詞 *지다/jida/*・*되다/doeda/* の接続による被動文⁴
- ③ 被動の意味を表す動詞 *되하다/danghada/*・*받다/badda/* の接続による被動文

これらの三つの形態によって表された被動文を統語的な特徴によって、「直接被動」と「間接被動」に分けることができる。次の(5)(6)は直接被動文、(7)(8)は間接被動文である。

- (5) 범인이 경찰에게 붙잡혔다.

Bŏ min-i ky ō ngch'al-ege putjabhyŏ dda⁵.

犯人は警察に捕まえられた。

- (6) 한글은 세종대왕에 의해서 만들어졌다.

Hang ŭ l-ŭ n Sejongdæwang-e ū ihaes ŏ mand ŭ l ŏ jyŏ dda.

² 非情物直接受身文は日本語の固有な表現ではないという「非情物受身非固有説」(山田 1908 等)もあるが、現代語においては非常に頻繁に使われている受身文の一つである。

³ 所有物間接受身の所有物とは、主語に立つものの具体的な所有物や持ち物をさすだけではなく、身体の一部や、人間の性質・感情・属性なども含まれる。

⁴ 韓国語の被動文の形態の認定について、①のみを認める立場と、②③も被動の意味を表す形態として認める場合の二つに大別できる。

⁵ ハングルのローマ字表記は 1984 年 1 月に教育部によって改定された「国語のローマ字表記法」によるものである。

ハングルは世宗大王によって作られた。

- (7) 철수는 친구에게 애인을 빼앗기었다.

Ch' ō lsu-n ū n ch'ingu-ege aein- ū l ppaekki ō dda.

チョルスは友達に恋人を奪われた。

- (8) 우리는 이번 대회에서 라이벌팀에게 우승을 당했다.

Uri-n ū n ib ō ndaehoc-es ō raib ō ltim-ege us ū ng- ū l danghaedda.

私たちは今回の大会でライバルのチームに優勝された。

さらに、日本語の直接受身を有情物受身と非情物受身、間接受身を所有物受身と非所有物受身に分類したように、韓国語の被動文の場合も、それぞれ下位分類することができる。即ち、直接被動の場合、被動文の主語が有情物であるか非情物であるかによって「有情物直接被動」(以下、「有情物被動」と呼ぶ)と「非情物直接被動」(以下、「非情物被動」と呼ぶ)に分けられる。上の例文(5)は有情物被動文、(6)は非情物被動文である。

間接被動文の場合も、日本語の間接受身文と同様、被動文の述語動詞が表す動作を直接受けるものが主語の所有物であるか否かによって、「所有物間接被動」(以下、「所有物被動」と呼ぶ)と「非所有物間接被動」(以下、「非所有物被動」と呼ぶ)に下位分類することができる。上にあげた例文(7)は所有物被動文、(8)は非所有物被動文である。但し、間接被動文の場合、日本語には(4)のような自動詞によって間接受身文が成り立つが、韓国語にはそのような自動詞による被動文が成り立たない。従って、非所有物被動文は(8)のように、主語と無関係の第三者が述語動詞の表す動作の影響を受け、被動文の主語は間接的にその動作の影響を受けることを表す。

以上、韓国語の被動を直接被動と間接被動に大別し、さらにその下位分類として前者を有情物被動と非情物被動に、後者を所有物被動と非所有物被動に分類することにする。

3. 両国の受身文の使用に関する調査

3-1. 調査の背景と目的

日本で行われた日本語と韓国語の受身文に関する対照研究は、韓国人日本語学習者が日本語の受身を学習する際の指導法などに関するものが多く、日本語教育の現場に役立てることを目的として行われてきた。その方法としては、両言語の受身文に関する文法項目の比較や受身文の文型の対応関係に関するものが主流であった。

しかし、両言語の対照研究を実際の日本語教育の現場において役立てるためには、日本と韓国の実際の言語生活における受身文の使用に関する実証的な対照研究が必要とされる。本稿では日本の実際の言語生活場面で現れる受身文の使用に関する特徴を明らかにするために、一つの方法として、両言語のテレビドラマと新聞コラムの中で受身文がどのように使用されているかを調べた。

まず、日本語の受身文の使用に関する特徴として、日本語教育学会の情報書(1991: 183)には次のように述べられている。

初級段階の到達目標が日常生活における円滑な意思疎通にあることを考慮すると、いわゆる身の回りのことを話題にする分には受け身の使用頻度がそんなに高くないかとも思われる。しかし、中・上級段階で報道文や論文などに接する場合には非情物の受け身を中心に受け身表現が比較的頻繁に用いられる。

つまり、日本語の受身文は日常生活の話しことばよりも、報告文や新聞などの書きことばにおいてもっと頻繁に使われているということの意味する、このように日本語の受身文は話しことばよりも書きことばの中でより頻繁に使われていると予測されるが、実際の日本の言語生活において受身文がどのように使われているかという、受身文の使用に関する状況を把握することは非常に重要な意味を持つ。

従って本稿では、書きことばの中で受身文の使用に関する調査の一つの方法として新聞コラムの中に用いられた受身文について分析を行ったが、泉子・K・メイナード(1997: 123)は、新聞コラムが談話分析のデータとして利用されやすい理由を次のように述べている。

新聞コラムは、その時話題となっている事件や時事問題に関して執筆者が持っている意見や考え方を発表する場であるとされているため、コミュニケーションの意図がはっきりしていてつかみ易いと思われる。また、新聞コラムは長くても2,000字位で、分析の範囲が割合ははっきり設定されていることから、分析し易いこともある。

以上のことを踏まえた上で、本稿では、日本と韓国の新聞コラムとして、朝日新聞のコラム「天声人語」と東亜日報のコラム「형설수설/hoengseolseul」を分析の対象として、その中で両言語の受身文がどのように使われているかを分析した。

一方、話しことばの中で受身文がどのように使われているかを見るために、本稿では両国で放送されたテレビドラマをデータとして分析を行った。テレビドラマの中の発話は、作られた会話文であるが、日本の言語生活を反映する自然な会話に近いという考えから、分析の資料として選んだのである。分析のデータとしてのテレビドラマの資料は、放送されたものを録画し、すべて会話を文字化したものを用いた。

このような資料に基づいた分析から、本稿で明らかにしたいことは、それぞれの資料における両言語の受身文の使用頻度、受身文の構文別の割合、使い方の特徴などである。これらの内容を分析し、詳しく述べていくことにする。

3-2. 調査の対象

本稿で用いた日本語と韓国語の分析の資料として、書きことばの資料は、日本語は朝日新聞の「天声人語」を、韓国語は東亜日報の「형설수설/hoengseolseul」を用いた。そして、話しこと

ばの資料は、日本語はNHK連続テレビ小説「ひまわり」を、韓国語はSBS特別企画「모래시계/moraeshigye/」を用いた。

それぞれの資料の分量は以下のとおりである。

① 「天声人語」

- 発刊期間：1997年10月1日～12月31日（89本のコラム）
- 総文章の数：2,304文⁶

② 「황설수설/hoengs ō lsus ō l/」

- 発刊期間：1997年10月1日～12月31日（89本のコラム）
- 総文章の数：1,528文

③ 「ひまわり」（平成8年4月1日～10月5日）

- 放送時間：約40時間5分（162回×15分）
- 総会話文の数：約10,530文

④ 「모래시계/moraeshingye/」（1995年SBS特別企画）

- 放送時間：約8時間（8回×60分）
- 総会話文の数：約3,240文

以上の資料に基づいて、両言語の受身文の使用頻度を中心に分析を行ったが、次節でその分析結果について詳しく述べることにする。

3-3. テレビドラマの分析結果

3-3-1. 受身文の使用率

先ず、テレビドラマの中で使われた日本語と韓国語の受身文の使用頻度を見ると、「ひまわり」では683文の受身文が使われており、全体会話文の約6.5%を占めていた。それに対して、「모래시계/moraeshigye/」では被動文が67文しか使われておらず、全体の会話文の中で被動文が占める割合は約2%に過ぎなかった。両言語ともに話しことばにおいて受身文の使用率がかなり低かったが、特に日本語より韓国語の方が被動文の使用率が非常に低いと言える。この結果をまとめると表1のようになる。

直接受身文と間接受身文の使用率を見ると、両言語ともに直接受身文の使用率が圧倒的に高かった。「ひまわり」の中で直接受身文の使用率は87.1%、「모래시계/moraeshigye/」の中で直接被動文の使用率は91%であった。

⁶ ここでいう文の数とは、国立国語研究所(1955:2-4)の「話しことばの文型(1)」において行われた文の定義に従って数えたものである。

表1 両言語のテレビドラマにおける受身文の使用状況

受身の種類		「ひまわり」	「모래시계」
直接受身文	有情物受身文	483 70.7	39 58.2
	非情物受身文	112 16.4	22 32.8
間接受身文	所有物受身文	30 4.4	3 4.5
	非所有物受身文	58 8.5	3 4.5

(単位: 上段-文, 下段-%).

直接受身文の中でも、特に、有情物受身文の使用が一番多かったが、「ひまわり」の場合は、全体の受身文の70%以上を占めており、非常に高い使用頻度を示した。間接受身文の使用は両言語ともに低く、「ひまわり」では12.9%、「모래시계/moraeshigye/」では9%を示した。

これらの両言語の受身文の使用率をグラフで示すと図1と図2のようになる。

図1と図2から分かるように、両資料における受身文の使用には類似した傾向が見られるが、異なる点は、非情物受身文の使用率が「ひまわり」よりも「모래시계/moraeshigye/」の方がやや高いことである。つまり、非情物を主語とする受身文は、日本語の受身文よりも、韓国語の受身文において頻繁に使われるということを意味する。言い換えると、日本語の受身文が韓国語の受身文よりも有情物を主語とする受身文の使用が高いことであろう。

3-3-2. 話しことばにおける受身文の使用率の特徴

この節では、前節で行ったテレビドラマの中で使われた受身文の使用率の分析に基づいて、話しことばにおける両言語の受身文の特徴についてまとめることにする。

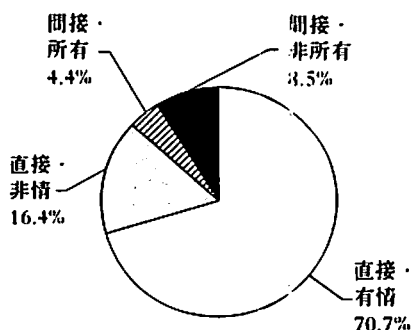


図1 「ひまわり」の受身文の使用状況

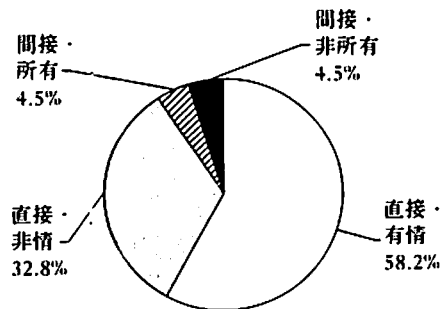


図2 「모래시계」の受身文の使用状況

① 日本語と韓国語の両言語ともに、話しことばにおいては受身文の使用率が非常に低いようである。今回の調査における受身文の使用頻度を見ると、日本語の場合は全体の会話文の約6.5%、韓国語の場合は約2%に過ぎなかった。

② 受身文を直接受身文と間接受身文に分類してその使用率を見ると、両言語ともに直接受身文の使用率が間接受身文の使用率よりはるかに高いことが分かった。特に、直接受身文の中でも有情物受身文の使用が高く、有情物受身文の割合は、日本語で70.7%、韓国語で58.2%を占めている。有情物主語による受身文の使用率は韓国語よりも日本語の方が高く、日本語の受身文が韓国語の被動文よりも有情物中心の表現が好まれると考えられる。

以下、直接受身文の例をあげることにする。(9)~(12)は有情物受身文、(13)~(16)は非有情物受身文の例である。以下の例文の中で は動作を行った主体、 は動作の影響を受けた客体、 は受身の述語動詞を示す。

(9) 優: 昨日, 桃子に怒られちゃった…。(「ひまわり」27回放送)

(10) 達也: 今, お袋に殴られた時の話, してたんだ。なあ, お袋, すげえ, 怒かったよな。
(同141回)

(11) 태수어머니: 니 아미지, 산에 들어가고, 겨울이 두번 지나고, 토벌대한테 잡혔다는 소리를 들었어. (「모래시계」第1部放送)

[筆者訳: 君のお父さんが, 山に入って, 2年が経って, 討伐隊に捕まえられたということ聞いた.]

(12) 태수: 다시는 힘이 없어서, 내 여자에게서 쫓겨나는 놈 되지 않겠어. (同第3部)

[筆者訳: 二度と, 力がなくて, 女に追出されるような人にはならないよ.]

(13) あづさ: 主人からは…家を出て一年後に…もう一度, 離婚届が送られてきました。(同18回)

(14) 竹永: 弁護士の社会的信用は, 刑事事件で無実の人を救済してきた歴史によって作られてきたってところがあるからな…常に刑事弁護の気持ちを忘れないでやれってったんだよ…。(同85回)

(15) 장: 윤회장께서 국가를 대신해서 경영하시고, 그 수익금은 국가이익을 위해 적립될 겁니다. (同第3部)

[筆者訳: ユン会長が国家の代わりに経営されて, その収入金は国家の利益のために積立てられることになります.]

(16) 헤린: 거기 쓰여진 돈은 세금하고는 상관없는 돈이야. (同第4部)

[筆者訳: そこに書かれているお金は, 税金とは関係のないお金だよ.]

③ 両言語の直接受身文の表す意味は、上にあげた例文からも分かるように、有情物受身文は主語に立つものが被害を受けたことを表す文が多い。その反面、非有情物受身文は被害の意味とは

関係なく、主語である非情物に焦点を当てて、ある状況を説明する文が多い。受身文の表す意味は日本語と韓国語において共通している。

以上のように、直接受身文における日本語と韓国語の使い方は非常に類似していると言える。

- ④ 間接受身文は、全体の受身文の中でも使用率が非常に低く、日本語では 12.9%, 韓国語では 9% に過ぎなかった。従って、両言語のテレビドラマの中では、間接受身文はほんのわずかの例しか使われていないと言える。

間接受身文を所有物受身文と非所有物受身文に分類すると、日本語は所有物受身文が 4.4%, 非所有物受身文が 8.5% で、非所有物受身文の利用率がわずかに高いのに対して、韓国語は所有物受身文と非所有物受身文の例文が 3 文ずつで同数であった。

以下、(17)~(20) で所有物受身文の例を、(21)~(24) で非所有物受身文の例をあげることにする。以下の例文の中で、……は動作の影響を受けた対象物を示す。

- (17) のぞみ：あ…お盆の提灯…?

うらら：ハア…虫に食われてしまったワ。せっかくじいさんのために上等なものを買ったのにイ。(同 81 回)

- (18) 桃子：おいしい…！お母さんのそうめんて最高！

あづさ：ほんと！

薫乃：そうめん、ほめられてもねえ。(同 88 回)

- (19) 선혜어머니：남자 하나 잘못 만나서, 있는 돈 없는 돈 다 뜯기고, 뭐 그런거 아니겠나?
(同第 2 部)

[筆者訳：変な男に会って、お金を全部とられてしまったのじゃないの?]

- (20) 장：너무 궁지에 몰면 발가락을 물릴 수 있지 않겠습니까? (同第 3 部)

[筆者訳：あまり追いつめると、足を噛まれるのではないのでしょうか?]

- (21) 真弓：あー、先に死なれるくらいなら、子供なんて産まなきゃよかったわあ…。(同 56 回)

- (22) 純一郎：いえ…。入ってから迷われるより、よっぽどいいですよ。いいだけ考えてください。(同 105 回)

- (23) 남자：힘들겠지만 끝까지 버티자. 도침까지 빼앗긴다면…。우린 공수도 아니고 군인도 아니다。(同第 1 部)

[筆者訳：大変だけど最後までがんばろう。道庁まで奪われたら…。私たちは空守でもないし、軍人でもないんだ。]

- (24) 남자：데려가긴 데려갔는데, 중간에 뺏겼답니다。(同第 4 部)

[筆者訳：連れて行くのは行ったんですが、途中(犯人を)奪われたそうです。]

間接受身文を所有物受身文と非所有物受身文に分けて、日本語と韓国語の例文をあげたが、間接受身文が表す意味はほとんど被害の意味であり、それは日本語と韓国語に共通する。しかし、日本語の非所有物受身文の場合は、(21)の「死ぬ」のように自動詞においても成り立つ例があり、韓国語と異なる特徴である。

以上、この節では日本語と韓国語の話しことばにおける受身文の使用に関する特徴を、両言語のテレビドラマの中に使われた例文をあげながら述べた。次節では新聞コラムにおける両言語の受身文の使用率について考察を行う。

3-4. 新聞コラムの分析結果

3-4-1. 受身文の使用率

続いて、両言語の新聞コラムの中に使われた受身文の使用率について見てみよう。「天声人語」の中に使われた2,304文の談話文の中で、受身文として認められる文は285文で、全体の約12.4%を占めた。一方、「황실수설/hoengs ō lsus ō l/」の場合は、1,528文の談話文の中で、被動として認められる文は305文で、全体の約20%を占めた。

受身文の使用率については、新聞コラムの方がテレビドラマより高い使用率を示した。つまり、話しことばの中では日本語と韓国語の受身文の使用率がそれぞれ6.5%と2%で非常に低かったが、書きことばにおいては12.4%と20%であり、かなり高い使用率を示したのである。この結果から、両言語の受身文の使用頻度は、話しことばよりも書きことばにおいてはるかに高いといえる。

新聞コラムに使われた受身文の使用率についてまとめると表2のようになる。

日本語の受身文の使用状況を見ると、非情物受身文が66%で一番高く、その次が有情物受身文で31.2%、所有物受身文が2.8%の順になっている。そして、非所有物受身文は0%で全然使われ

表2 両言語の新聞コラムにおける受身文の使用状況

受身の種類		「天声人語」	「황실수설」
直接受身文	有情物受身文	89	62
		31.2	20.3
	非情物受身文	188	240
		66	78.7
間接受身文	所有物受身文	8	3
		2.8	1
	非所有物受身文	0	0
		0	0

(単位: 上段-文, 下段-%).

ていなかった。

韓国語の新聞コラム「황설수담/hoengseōlsusōl」の中では被動文が305文で、全体の談話文の約20%であった。それを形態別に分類してみると、接辞による被動文が72文で約23.6%, 지다/되다による構文的な被動文が203文で約66.6%, 당하다/받다による語彙的な被動文が30文で約9.8%であった。韓国語の新聞コラムにおいては지다/되다の形態による被動文が全体の被動文の66.6%を占めており、被動文を表す形態の中で最も頻繁に使われたことが分かる。

前節のテレビドラマ「모래시계/moraeshigye/」の中に使われた被動文を調査した結果では、被動の接辞이/히/리/기が接続した形態による被動文の使用が一番多かったが、その結果と今回の新聞の中に使われた被動文の調査結果を比べてみると、新聞コラムの中では지다/되다の形態による被害動文の使用が多いのに対して、テレビドラマの中では被動の接辞による被動文の使用が多いことが明らかになった。この結果から、韓国語の形態別による被動文の使用は、話しことばと書きことばにおいて異なっているということが言える。

韓国語の305文の被動文を本稿の被動文の分類によって分類してみると、直接被動文が302文、間接被動文が3文で、直接被動文の使用が全体被動文の99%を占めており、今回の調査において韓国語の新聞コラムに用いられた被動文はほとんどが直接被動文であることが分かった。迫田・西村(1991: 74-75)では日本語教育における目標言語調査として「天声人語」の中で受身文がどのように使用されているかを調査したが、その結果、本稿での調査の結果と同じく直接受身文の使用が90%以上であると述べられている。

直接被動文をさらに有情物被動文と非情物被動文に分けて見ると、有情物被動文が62文で全体被動文の20.3%, 非情物被動文が240文で全体被動文の78.7%を占めていた。韓国語の被動文の使用状況を見ると、非情物被動文の使用が78.7%で一番高く、その次が有情物被動文で20.3%, 所有物被動文が1%の順になっている。そして、非所有物被動文は日本語の受身文と同様、0%で全然使われていなかった。

これらの結果をグラフで示すと、図3と図4のようになる。

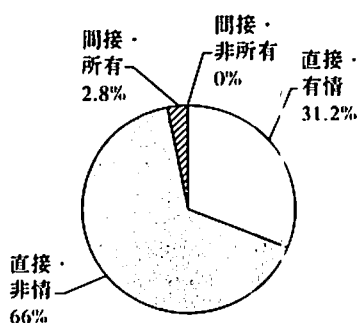


図3 「天声人語」の受身文の使用率

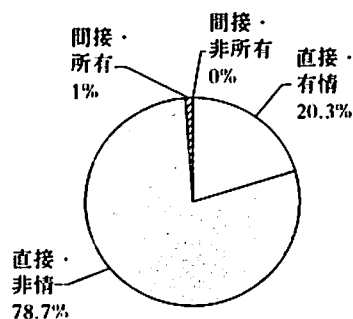


図4 「황설수담」の被動文の使用率

日本語の受身文の使用率を示した図3のグラフと、韓国語の被動文の使用率を示した図4のグラフを比べてみると、両言語ともに非情物が主語になる受身文の使用が圧倒的に多いことで共通している。また、両言語ともに非所有物受身文が全然使われていなかったことも共通点としてあげられる。有情物受身文は、韓国語の資料では20.3%であったが、日本語の資料では31.2%で、日本語の方が有情物受身文の使用が若干高かった。

3-4-2. 書きことばにおける受身文の使用率の特徴

この節では、前節で行った新聞コラムの中で使われた両言語の受身文の使用率の分析に基づいて、書きことばにおける受身文の使用率の特徴についてまとめることにする。

- ① 新聞コラムにおける受身文の使用率は、テレビドラマにおける受身文の使用率よりもはるかに高く、それは日本語と韓国語において共通する特徴である。つまり、「天声人語」の中で受身文が占める割合は全体の談話文2,304文中285文で約12.4%、「蜚蜚新蜚」の中で被動文が占める割合は全体の談話文1,528文中305文で約20%であった。

両言語のテレビドラマの中で受身文の使用率が、日本語が約6.5%、韓国語が約2%に過ぎなかった結果に比べると、新聞コラムの中では頻繁に受身文が使われていたと言える。言い換えると、両言語において、受身文は話しことばよりも書きことばにおいて頻繁に使われる傾向があると言えよう。

- ② 受身文を直接受身文と間接受身文に分類すると、「天声人語」と「蜚蜚新蜚」とともに、直接受身文が90%以上を占めている。「天声人語」の中では直接受身文が277文で97.2%、「蜚蜚新蜚」の中では直接受身文が302文で99%を占めている。日本語と韓国語の新聞コラムに見られる受身文はそのほとんどが直接受身文であると言っても過言ではないようである。
- ③ 直接受身文をさらに有情物受身文と非情物受身文に分類して使用率を分析すると、「天声人語」と「蜚蜚新蜚」とともに、非情物受身文の使用率が高かった。「天声人語」と「蜚蜚新蜚」において有情物受身文と非情物受身文の割合を見ると、有情物受身文は前者が31.2%、後者が20.3%であるのに対して、非情物受身文は前者が66%、後者が78.7%であった。特に韓国語の新聞コラム「蜚蜚新蜚」において非情物受身文の高い使用率が確認された。

以下、「天声人語」と「蜚蜚新蜚」の中に使われた日本語と韓国語の直接受身文の例をあげるが、(25)～(34)は有情物受身文と有情物被動文、(35)～(44)は非情物受身文と非情物被動文の例である。

- (25) こんど金正日氏が、最高権力者の座である労働党の総書記に選出され、就任したという。
(1997年10月10日「天声人語」)
- (26) 立挙の選手一人がけがをして病院に選ばれた。(同年10月17日)
- (27) 東京のよく知られた進学校の男子生徒が、父親に殺された。(同年10月18日)

- (28) 東京・上野動物園の雄ゴリラ, ブルブルはそれほど人びとに愛されていた. (同年 11 月 9 日)
- (29) カザフスタンは来月十日, 現在のアルマトイから北部のアクモラに遷都する. 大統領はすでに一度, 何千人もの民衆に迎えられ, 新首都に入った. (同年 11 月 11 日)
- (30) 아버지는 와이셔츠에 넥타이도 매지 않고 손목시계도 풀어 놓으신 채 북녘땅으로 끌려가셨다. (1997 年 10 月 11 日 「형설수설」)
- [筆者訳: 父親はワイシャツにネクタイもしめないで, 腕時計もおいたまま北の方に連れて行かれた.]
- (31) 김정일이 당총비서로 공식 추대된 후 군부가 더욱 득세할 것이라는 관측이 유력하다. (同年 10 月 14 日)
- [筆者訳: 金正日が党総秘書に公式的に推戴された後, 軍部がさらに掌握するだろうという予測が有力である.]
- (32) 재계 인명록을 뒤져 서울 성북동 일대 부잣집에서 수억원어치의 귀금속을 털어온 도둑이 최근 붙잡혔다. (同年 10 月 22 日)
- [筆者訳: 財界の人名録を探し, ソウルソンブク洞一帯の金持ちの家から, 数億ウォン相当の宝石を盗んできた泥棒が最近捕まえられた.]
- (33) 에이즈 감염자의 입장에서 보면 사정은 다르다. 감염사실 하나만으로 세상이 무너지는 듯한 충격인데다 가까운 친구나 심지어 가족들로부터도 외면당하고 직장생활도 불가하다. (同年 11 月 29 日)
- [筆者訳: エイズ感染者の立場から見ると事情は異なる. 感染の事実だけで世の中が崩れるようなショックなのに, 親しい友達やさらには家族からも排除され, 社会生活は不可能である.]
- (34) 현직 김사가 경찰관에게 체포된 것은 아마 건국 이후 처음인 듯싶다. (同年 12 月 9 日)
- [筆者訳: 現職検事が警察官に逮捕されたのは, おそらく建国以来初めてのことのようにだ.]
- (35) 滑走路の長さは限られている. (同年 11 月 21 日)
- (36) 행정개혁會議が設けられ, 初会合で首相は決意を表明した. (同年 11 月 23 日)
- (37) 昔の記事を引いたのは, これが教材に使われていることを最近知ったからだ. (同年 11 月 25 日)
- (38) ある作品でストーブを置き, 周りを安全柵で囲んだ. ストーブも作るスポンサーから「危険に見える」と注文が出た. 作品は放映されなかった. (同年 12 月 7 日)
- (39) 賛成派の事務所が置かれた広場に, 市の将来像を描いた看板が立っていた. 地図に数々の開発計画が描き込まれている. (同年 12 月 22 日)

- (40) 전국의 주요시설과 대형건물, 아파트와 단독주택, 도시의 거리 이곳저곳에 태극기가 내걸렸다. (同年 10 月 5 日)
 [筆者訳: 全国の主要施設と大型建物, アパートと一軒住宅, 都市の街角あちこちに国旗が掲げられた.]
- (41) 지뢰는 비인도적인 무기임에 틀림없지만 한반도에서는 전쟁억지라는 인도적인 목적을 위해 쓰이고 있다. (同年 10 月 17 日)
 [筆者訳: 地雷は非人道的な武器であるに違いないが, 韓半島では戦争抑制という人道的な目的のために使われている.]
- (42) 일부 파손되거나 더러워진 작품이 장기간 방치되기도 한다. (同年 11 月 17 日)
 [筆者訳: 一部破損されたり, 汚れた作品が長期間放置されていたりする.]
- (43) 이들 학자는 세계화의 과실이 지구촌에 골고루 분배되지 않고 초국가적 금융자본과 거대 미디어를 등에 업은 문화제국주의에 의해 독점되고 있다고 주장한다. (同年 11 月 28 日)
 [筆者訳: 学者達は世界化の果実が地球村に対等に分配されないで, 超国家的な金融資本と巨大メディアを背負った文化帝国主義によって独占されていると主張する.]
- (44) 철단 고가제품은 일본에 치이고 중저가 제품은 중국에 밀려 「메이드 인 코리아」를 찾아보기가 어렵다. (同年 12 月 2 日)
 [筆者訳: 先端高価製品は日本にはねられ, 中低価製品は中国に押され, 「メイドイン코리아」はあまり見当たらない.]

上にあげたように, 新聞コラムにおける直接受身文と直接被動文の表す意味を見ると, 書きことばにおいては主語が被害や恩恵を受けたことを表すよりも, 主語に立つものに焦点を当てて, ある事実について説明する, という意味を表す文が多い。

直接受身文が被害や恩恵の意味を表すのは, 「殺される, 愛される」などの動詞が持っている語彙の意味によるものが多いが, 新聞コラムには人間の感情を表す語彙の使用が少なく, 従って両言語における直接受身文の意味も主語の感情を表すものが少なかったと思われる。最も, 新聞コラムには中立的な意味を表す非情物受身文の使用率が高いため, 主語の被害や恩恵などを表す受身文が少ないのは当然のことかも知れない。

- ④ 間接受身文は特に書きことばである新聞コラムには非常に使用率が低く, 「天声人語」の中では 8 文で 2.8%, 「황설수설」の中では 3 文で 1% の使用率に過ぎなかった。間接受身文が実際の言語生活においては使われる場面は非常に少なく, 使用頻度は非常に低いようである。迫田・西村 (1991: 74-75) の調査においても, 間接受身文の使用はわずか 6% に過ぎなかったと述べられている。

間接受身文を所有物受身文と非所有物受身文に分類してみると、今回の調査において使われた間接受身文はすべてが所有物受身文で、非所有物受身文の例は1例もなかった。それは「天声人語」と「蜚蜚語」において共通している。

以下、所有物受身文の全例をあげることにする。(45)～(50)は「天声人語」の中に使われた所有物受身文、(51)～(52)は「蜚蜚語」の中に使われた所有物受身文の例である。

- (45) 引き分けの結果に殺気立ったファンが、一台一台タクシーを検問、「選手は乗っていないか」と目をつり上げていたそうだ。「乗っていたら車をひっくり返され、火をつけられていましたね」。(同年10月29日)
- (46) インド亡命中のダライ・ラマの一挙手一投足に神経をとがらせている中国政府には、なるほど好ましくない内容だろう。痛いところを突かれた、とも言える。(同年11月2日)
- (47) 一九六〇年前後を中心に約九万人の在日朝鮮人家族が北朝鮮に渡ったが、その人たちは多かれ少なかれ日本でつらい生活を味わわれていた。それが帰還のきっかけとなった人も数多い。しかも、差別は、いまでもある。里帰りするなかで、日本名を公表されない人が半数もいる。(同年11月8日)
- (48) 月給族は、手にした給与から所得税その他をあらかじめ差し引かれている。源泉徴収だ。「問答無用で取られてしまう」。そんな実感を抱いている人が、かなり多いように思う。(同年11月20日)
- (49) これほど長い間、引退をうんぬんされた力士も珍しい。(同年11月24日)
- (50) その渦中で、連日相撲を取る。精神的にも相当重圧だったに違いない。マスコミに背を押されるように十四日巨の朝、部屋の親方が「引退」を口にしてしまった。(同年11月24日)
- (51) 집안의 애사중에서 으뜸이 삼을 당하는 것이고 그 다음이 가족중 누군가가 수사기관에 구속되는 일일 것이다。(同年10月6日)
[筆者訳：家一番の哀事は(家族の誰かに)死なれることで、その次が家族の誰かが捜査機関に逮捕されることであろう。]
- (52) 달러화에 대한 원화 환율이 내려가지 않으면 내년 1 월에는 휘발유 값이 1ℓ 당 1천원대를 돌파하게 된다. 원금도 값이 는 판에 작은 부담이 아니다。(同年12月7日)
[筆者訳：ドルに対するウォンの為替が下がらなければ来年の1月にはガソリン代が1ℓ当たり1千ウォン代を突破することになる。給料も引かれるところなので負担は大きくなる。]

両言語の所有物受身文が表す意味は、主語と関係のある所有物もしくは人が直接的に受身文の

表す事象の影響を受けることであるため、主語は間接的に被害の影響を受けることを表す。上にあげた例文からも分かるように、「天声人語」と「황실수설」の中に使われた所有物受身文の意味はすべて被害の意味を表している。

以上、この節では両言語の新聞コラムの中に使われた受身文を、使用率を中心とした分析に基づいて、それぞれの受身文の例文を通じて、書きことばにおける受身文の使い方について検討を行った。次節では、今回の調査の分析結果を、日本語と韓国語の話しことばと書きことばにおける受身文の使用率を比較しながらまとめることにする。

3-5. 話しことばと書きことばにおける両言語の受身文の使用率

本稿では日本語と韓国語の受身文について、話しことばのデータとして両国で放送されたテレビドラマを、そして書きことばのデータとして新聞コラムをもって、その中で受身文がどのように使われているかを、受身文の使用率を中心にして分析を行った。分析の結果、両言語の受身文の使用には次のような特徴があることが分かった。

第一、日本語と韓国語の受身文は、実際の言語生活場面においてはあまり使われておらず、両言語のテレビドラマの中の使用率は、日本語が全体会話文の約 6.5%、韓国語が約 2% に過ぎなかった。

第二、日本語と韓国語の受身文は、話しことばよりも書きことばにおいて、より頻繁に使われていると言える。新聞コラムの中での受身文の使用率は、日本語が 12.4%、韓国語が 20% であった。

話しことばにおいては有情物が主語になる有情物受身文の使用率が高く、書きことばにおいては非情物が主語になる非情物受身文の使用率が高いことが分かった。そのような、受身文の使用に関する傾向は日本語と韓国語において類似している。

第三、受身文の構文別の使用率を見ると、直接受身文と間接受身文とでは、直接受身文の使用が圧倒的に多かった。特に、両言語の新聞コラムで直接受身文が占める割合は、日本語が 97.2%、韓国語が 99% にも上り、非常に高い使用率を示した。

その反面、間接受身文の使用率は非常に低く、テレビドラマにおいては日本語が 12.9%、韓国語がわずか 9% の使用率にとどまった。間接受身文は実際の言語生活場面においては使われる場面が非常に限られると言える。

第四、日本語の受身文の使用率は、テレビドラマにおいては有情物受身文の使用が 70.7% にも上り、非情物受身文が 16.4% であったのに対して、新聞コラムにおいては有情物受身文の使用率が 31.2% にとどまり、非情物受身文の使用が 66% を示した。

この結果から言えることは、日本語の受身文は話しことばと書きことばにおいて、使用される構文にははっきりした差があるということである。

第五、韓国語の被動文の使用率は、テレビドラマにおいては有情物被動文の使用が58.2%、非情物被動文が32.8%で、有情物被動文の使用率が高いが、非情物被動文の使用率も、日本語よりはるかに高かった。一方、新聞コラムにおいては非情物被動文が78.7%、有情物被動文が20.3%で、非情物被動文の使用率が高く、有情物被動文の使用率が低かった。

この結果を日本語の受身文の使用と比べてみると、韓国語の非情物被動文は、話しことばにおいても、書きことばにおいても、日本の非情物受身文より使用率が高いと言える。

4. 結 論

以上、本研究では、日本語の受身文と韓国語の被動文を、実際の言語生活場面での使用率を中心に対照分析を行った。その結果、両言語の受身文の使用率は類似した傾向があるが、日本語よりも韓国語の方が、非情物が受身文の主語として現れやすいという相違点もあることが分かった。

今回の調査においては、両言語の受身文の使用率を中心に分析を行ったが、受身文の構文と意味との間には強い関連があると思われる。日本語と韓国語の受身文の構文と意味との関係については、今後の研究課題にしたい。

参 考 文 献

- 李吉遠(1991)「韓・日両言語の受身構文」、『阪大日本語研究3』、大阪大学文学部日本語科。
 生越直樹(1982)「日本語漢語動詞における能動と受動——朝鮮語 hata との対照——」、『日本語教育48』、日本語教育学会。
 ———(1991)「現代日本語のテンス アスペクト・ヴォイスについての総合的研究——韓国人日本語学習者テンス・アスペクトに関する誤用について——」、横浜国立大学。
 柴公也(1986)「漢語動詞の態をいかに教えるか——韓国人学生に対して」、『日本語教育59』、日本語教育学会。
 迫田久美子・西村浩子(1990)「コミュニケーションを重視した受け身文の指導法の研究——教科書分析及び目標言語調査に基づいて——」、『日本語教育73』、日本語教育学会。
 塚本秀樹・鄭相哲(1993)「韓国語における固有語動詞の受身について」、『月刊言語22』、大修館書店。
 ———(1994)「韓国語における漢語動詞の受身について」、『朝鮮学会153』、朝鮮学会。
 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』、くろしお出版。
 日本語教育学会編(1991)『日本語教育機関におけるコース・デザイン』、凡人社。
 メイナード・K・泉子(1993)『会話分析』日英対照研究シリーズ2、くろしお出版。
 ———(1997)『談話分析の可能性——理論・方法・日本語の表現性』、くろしお出版。
 ———(1998)『日本語談話原理の理解と読解指導：新聞コラムの場合』、『世界の日本語教育8』、国際交流基金日本語国際センター。

分析資料

- 朝日新聞1997年10月1日～12月31日。
 東亜日報1997年10月1日～12月31日。
 平成8年NHK連続テレビ小説「ひまわり」。
 1995年韓国SBS特別企画「모래시계/moraeshigye/」。